

アイスブレイクまめ知識

必要な道具・あると便利な道具

◆紙

話した内容や確認事項を記入しておくことで、情報の可視化ができ、共通理解の助けになります。また「書く（または描く）」という作業を通じて、より能動的な参画が期待できます。A4サイズのコピー用紙の他、必要に応じてフォーマットを作成します。

◆筆記用具

記入に必須。ペン先が太いマーカーは、わかりやすく大きな文字を書くのに適しています。参加者が誤って持ち帰らないよう、最後に回収することをお忘れなく。

◆磁石

フリップや模造紙などを掲示するために使います。あると何かと便利です。

◆キッチンタイマー

制限時間のあるプログラムで大活躍！最初にセットしておけばファシリテータの代わりにタイムキーパーを務めてくれます。マグネット付きのものはホワイトボードなどにくっつけられて便利です。

グループ分けのヒント

◆どんなグループをつくりたいのか

バックグラウンドの近い人を集めるのが、多様な人の集まりにするのが等、グループの目的に合わせた方法が必要です。

◆ランダムな分け方の例

グループメンバーの属性にこだわらない場合、既存の情報を使ってランダムに分かれることができます。

(例)「学生証番号の末尾1桁」や「生年月日の数字の総和の末尾1桁」の数字が同じ人が集まる
誕生月別に集まる

こんなことに気をつけよう

参加者全員が楽しめるプログラムを

アイスブレイクの目的は、参加者同士が好い関係を築き、その後のプログラムを円滑に進めることです。本来の目的が達成されるために配慮したいことをあげておきます。

◆単位があまりとれておらず、自己評価の低い参加者

その場が「居場所」として機能することが求められます。少人数でゆっくり話をするなど、「入りやすい」アイスブレイクから始め、競争型などは他の参加者とコミュニケーションがとれてからが望ましいです。

◆障がいのある参加者

四肢障がいの場合、移動が少ない内容や座ってできるようアレンジします。また赤と緑など、組み合わせによって見づらい色もあるので、可能な範囲で対応しましょう。

◆コミュニケーションに困難がある参加者

予想外の事態に対応できなかつたり、他者との関係がうまくつけれない参加者がいる場合は、ファシリテータが適宜介入して、他の参加者からの意見を吸収するなどしましょう。

◆多様な文化をもつ参加者

日本語が十分にわからない場合は、ゆっくり話す、見本を見せるなどの工夫をします。また、宗教によっては身体活動に関する制限（左手の使用を忌避する等）があります。

参加する権利／参加しない権利を保障する

場の雰囲気を楽しむアイスブレイクですが、さまざまな理由でどうしても参加しづらい人がいる場合があります。参加する権利と同様、「参加しない権利」を保障し、強制的な参加にならないようにしましょう。